

貿易と環境

International Trade and Environment



教授 佐竹 正夫
Professor
Masao Satake

Our department studies the environmental issues in relation to international economy such as international trade of recyclable materials, eco-dumping, global public goods and free trade system, fair trade, pollution haven hypothesis and so on. My recent research is to analyze the effects of export of recyclable materials such as plastic bottles on the Japanese recycling system.

研究・学会活動

昨年に引き続き、循環資源（再生資源や中古品）の国際貿易について研究を行っている。

特に使用済みペットボトルの中国への輸出が国内のリサイクル制度（容器包装リサイクル法）に与える影響について、理論的な研究を行っている。1990年代の後半から、古紙、廃プラスチック、鉄くず、非鉄金属くずなどの再生資源が、アジア、特に中国に向けて輸出されるようになった。この背景には、中国の経済発展とそれに伴う旺盛な資源需要があるが、日本でリサイクル制度が整備されて、再生資源が公的なルートを通じて多く回収されるようになったことも理由として挙げられる。政府がリサイクル制度を整備したのは、従来は焼却・埋立っていた廃棄物をできるだけ資源として活用すると同時にリサイクル産業を育成し、経済の活性化にも繋げる意図がある。しかし、せっかく市民が協力し自治体が収集したペットボトルが海外に流出

すると、それらを使用してリサイクル品を生産する国内のリサイクル産業は再資源化ができず、廃業に追い込まれるといった事態が生じた。政府は国内のリサイクル制度の崩壊することを恐れ、2006年に容器包装リサイクル法を改正する際に、ペットボトルが海外に流出しないための措置を講じた。

本研究では、このようなりサイクルの現状を描写する経済モデルを構築し、実際の循環資源の流れや価格の動きがどのような要因で起きているのかを説明すること、そして輸出を規制する政府の方針が経済的に見て合理的な政策であるのかどうかを検討している。この結果は、The International Economy (2010年、No.14) に掲載された。また、より広い観点から、再生資源や中古品の東アジアにおける貿易の実態と理論的課題についても研究を行い、これは「東アジアにおけるリサイクル貿易の現状と課題」（佐竹正夫・斉藤崇）として、馬田啓一・浦田秀次郎・木村福成編著『日本通商政策論－自由貿易体制と日本の通商政策－』（文眞堂）に掲載されることになった（来春刊）。



A production center in a local area in Bangladesh



研究員
松村 玲
Researcher
Rei Matsumura

他には、『世界経済評論』（世界経済研究協会）2010年7/8月号に書評を掲載した。

松村は、インドネシアを対象として、発展途上国の経済成長に対する投資の役割について理論的実証的研究を行っている。具体的な投資としては海外直接投資、人的資本投資（教育投資）、社会資本（インフラストラクチャー）投資を考え、これらが生産性に及ぼす効果について検証している。この研究は、「貿易と経済厚生へのインフラストラクチャーの影響」という題目で『国際経済』第61号に掲載された。

学会活動では、日本国際経済学会第69回全国大会（2010年10月16日～17日）の共通論題（「サステナビリティと国際経済」）の座長を務めた。また、同学会の機関誌『国際経済』の編集責任者として『国際経済』61号を10月に発行した。『国際経済』の編集は引き続き2年間続けることになった。

教育活動

教育活動としては、地域環境・社会システム学コースの他に、ヒューマン・セキュリティ連携国際プログラム、環境フロンティア国際プログラム及び環境政策技術マネジメントコースなどの教育に関わっている。3月に前期課程の学生が1名修了し、2011年1月現在では、指導する学生は7名（後期課程5名、前期課程2名、うち休学1名）である。内訳は一般2名、社会人2名、留学生3名である。前期課程の2名の学生は環境フロンティア



Members of Satake Laboratory

の入学生で、それぞれ2010年3月にバングラデシュと中国にエコ・プラクティスの研修に出かけた（写真参照）。学生の研究テーマは、「フェアトレードと途上国の発展」「日本製紙企業の対中直接投資－汚染逃避仮説に関して－」「炭素リーケージと国境税調整」「中国の大気汚染政策における科学者の役割」「韓国の対外行動の精神的淵源に関する研究」などである。

今年担当した授業科目は、環境経済論、環境科学概論、地域環境・社会システム学概論、環境科学演習、国際環境経済学（環境フロンティア）、環境材料プロセス学特論（物質・材料循環学コース）、Introduction to Environmental Studies (International Program for Environmental Sustainability Science)、環境と経済（全学教育、自然論）、基礎ゼミ（全学教育）、現代学問論（全学教育）になる。



A Japanese paper mill in Suzhou, China